

(様式2)

平成 27 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1595400027		
法人名	有限会社 大輪		
事業所名	グループホーム 奥阿賀 大輪の里		
所在地	新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬11603番地		
自己評価作成日	平成28年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成28年2月17日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム奥阿賀 大輪の里は、「角神温泉豪」の中の自然が豊かで四季折々の風景が近くで感じられる、静かで安全な高台に立地しております。集落から離れており、交通の不便さはありますが、施設の周辺を散歩したり、植物を育てたりと、とても優雅に過ごせる環境にあります。お風呂は、自慢の天然温泉でゆっくり好きな時間に入浴することができます。開所して3年が経ちますが、これからも新しいことに色々とチャレンジしていこうと考えております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境の中にあり、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所とは協力関係を築いている。事業所には温泉が引かれており24時間かけ流しであるため、利用者がゆったりとした湯船で入浴を一層楽しむことができるよう、また、皮膚疾患等の改善効果もある温泉の効能などを積極的にケアに取り入れている。

代表者と管理者は常に連携して運営にあたっており、管理者は職員との対話を重視し職員が意見を表明しやすい雰囲気がつくられている。職員は比較的若い年代が多く、研修に参加して資格取得を目指したいと意欲的である。

開設して3年が経過する中で、管理者は理念に基づき職員一人ひとりの様子に気を配りながら指導している。職員の資質の向上と事業所のサービスの質の向上を目的に、今後は近隣4地域合同での職員研修の開催に取り組むことも検討している。

事業所がさらに良くなるために日々検討しながら取り組んでおり、地域の拠点として今後ますます期待される事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰にでも理解できる分かりやすい理念を作成した。日々のケアの中で、理念を忘れないために、常に見える場所へ掲示し、実践につなげている。	開設時に代表者と管理者が中心となって作り上げた理念をわかりやすい言葉で提示している。より具体的な合言葉として「入居者の方を笑顔に」をモットーとして取り組んでいる。新人職員には管理者が説明し職員全員で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に作品を出品したり、ベルマークを集め保育園へ寄付をしながら交流を深めている。これからも行事などを増やしながら更に地域の繋がりを強めていく	町内会に加入し、ゴミステーションの掃除の手伝いをはじめ、かかし祭りや公民館で行われる写真展等に参加している。近くの集落までは距離があり、7人の住民のほとんどが高齢者であるため、集落と事業所間の送迎についても考慮しながら地域の方を呼び込む工夫について、運営推進会議でも話題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点で実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、二カ月に一回の頻度で区長・民生委員や包括支援センター職員からも参加いただき、活動報告を行い、助言や意見等をいただいている。	会議は、概ね2ヶ月に1回開催しており、行事等への参加を家族に働きかけることや、足湯や防災訓練への参加を地域の方に呼び掛けることなど、検討事項や懸案事項を相談している。出された意見や提案はサービス向上へのヒントに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協議会を開催した際に、町の職員からも参加していただき、助言等をいただいている。更に、町の議員の方々に施設へ視察にきていただいたり連携をはかっている。	市町村担当者とは、平成17年の訪問介護事業所開設時から協力関係を構築している。鹿瀬・津川・三川・上川地区の4事業所で構成する「阿賀町グループホーム協議会」の会議にも毎回参加してもらい、情報や助言等を得ている。また、年1回の町議会議員の視察の際には事業所の情報を報告してもらおうなど連携を密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、ご利用者の想いを中心に据えた対応を心掛けており、ご利用者の意に反する援助や態度を制限している。夜間は除き、玄関等の施錠もしておらず自由に出入りが出来る環境にある。	毎月行う職員カンファレンスの際に内部研修を実施しており、マニュアルに沿って何が身体拘束にあたるのかを確認している。一人で事業所から出て行こうとされる方にはその気持ちを汲んで職員が付き添うなどして対応している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行ってはならないことと全職員が周知し、細心の注意を払っている。関連法についての学習も行っているが十分とは言えない。	不適切なケアについては職員同士で注意し合い、大きな問題に発展しないように努めている。管理者は、職員が疲労やストレスを感じた時にはその場から離れるよう声をかけたり、夜勤業務の不安軽減についても注意を払っている。	前回に引き続き取り組みの途中であるが、高齢者虐待防止関連法や虐待種別についての理解を深め全職員に周知が図られるよう、研修計画を立てて定期的に学ぶ機会を設けることを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点において成年後見制度を必要とされるご利用者はいないが制度を理解する為に、学ぶ必要があると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現時点において成年後見制度を必要とされるご利用者はいないが制度を理解する為に、学ぶ必要があると考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には施設へいつでも来てもらえるよう、はたらきかけている。ご家族来所時にはこのご利用者の近況報告を行い、意見や要望等を聞き、反映された支援内容になるよう努めている。	管理者が中心となって家族の面会時に要望を聞き出す努力をしている。遠方で面会が難しい家族には毎月請求書を郵送する際に管理者が手紙で近況を伝えている。出された意見や要望等は職員間で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で職員からの意見・要望があった際には、カンファレンスで検討を行い、反映させている。	年末に代表者と管理者、職員との三者面談を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。毎月のカンファレンスでも職員から意見・要望を聞き取っている。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表者に職員の声を話すだけでなく、代表者自らも現場に来て、職員から話を聞いたり、様子を見て、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や技術向上へ向けての講習会に参加させてもらい、日々のケアに努めている。また、研修の希望があれば応じるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿賀町管内の協議会において、管理者の交流を図っている。他事業所の活動報告等を聞いたり、助言をもらうことで関係を築きながら、サービスの質向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者に慣れていただくことを最重点とし、ご本人からの不安事や心配事を伺い、ケアプラン等へ反映し、安心してご利用いただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者本人の気持ちを把握するだけでなく、ご家族の方の希望や要望も聞き、柔軟な対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を聞き、様々な情報を得ながら、適当なサービス・支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者お一人お一人のこれまで行ってきたこと、今できることを見つけ、支援している。日々の中でご利用者に対する感謝の気持ちの声かけを行い、直接伝え、一方的な立場にならないように関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用料等の請求書を送る際に利用者一人ひとりの生活の様子を記載した手紙を同封している。面会時や電話でも利用者の様子を伝え、家族と情報の共有を図るよう努めている。	家族には面会時や電話で利用者の様子を伝えており、遠方で面会に来れない家族には手紙で近況を伝えている。外出や外泊等の協力を家族に働きかけ、本人と家族の関係が途切れないように支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の知人・親戚等の方も来所しやすい環境をつくり、隣接する施設に知人がおられる方は訪ね交流ができるように配慮している。	昔から利用している理髪店へ出かけたり、馴染みの店へ買い物に行ったり、隣接する施設を利用中の知人を訪ねたり、同じ地区の人同士で交流するなど、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋の閉じこもりを防ぐために、居室で過ごされる方には、定期的に声掛けを行い、負担にならない程度のホール誘導を行っている。ご利用者同士が協力し、支えあっている光景が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が入院された時も、ご本人に面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合い、必要に応じて相談・支援につとめている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や会話などからご利用者の思いを把握したり、ご家族からも生活歴などの確認を行い、努めている。	日々のかかわりの中で声をかけ、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めており、言葉や表情からもその真意を推し量りながら確認している。意思疎通が困難な方には、家族からも情報を得るようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日々の関わりだけでなく、ご家族にも聞き取りを行い、把握に努めている。	利用前に管理者が中心になって、本人、家族、担当の居宅介護支援専門員や利用していたサービス事業所の職員から話を聞き、それを基に思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。地域のなかでの関わりや、今まで受けてきたサービスから利用に至った経過等の理解を図り職員間で共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者お一人お一人のできることを把握し、それぞれ無理のない程度に、日々の活動の中にそれを取り入れ、ご本人の意思を尊重しながら、役割を持っていただく様につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスにて職員の意見やアイデアを聞き、ご家族の意向を踏まえ、ケアプランの作成・見直しを行っている。	計画作成担当者が介護計画を作成しており、半年に一度職員間で、本人本位の視点で話し合いを持って、現状に即した計画になるよう見直しをしている。また、状態変化があった時にはその都度見直している。	介護計画のアセスメントの基になる日々の記録が不十分である。計画が実施されているかを評価する記録も含めて様式を検討し、記載方法については職員研修を行うなどして、一連のケアマネジメントの流れがより有効に機能するよう取り組むことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用いて様子や、職員からの気づき等を記録し情報を共有しながら介護計画の見直し図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ご本人、ご家族の希望に対応した柔軟な支援や多機能化につとめている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	集落が離れた場所にある為、近所付き合いは十分ではないが、できる限り出かけるようにつとめている。今後も様々な計画を立て、地域のつながりを支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族と話し合い適切な受診ができるよう支援している。ご利用者に職員が付添をし、医師との連携を図っている。	入居前のかかりつけ医を継続できるように支援しており、定期受診は概ね職員が同行している。受診の際は町から支給されている「連絡ノート」に本人の情報を記入して持参し、受診結果を医師から記載してもらい、それをもとに職員間で情報共有を図っている。必要時は家族に適切に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師に情報を提供し、看護師からの指示や助言をもとに、適切なサービスを受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、定期的に面会に行きご本人の様子を直接見に行くだけでなく、病院関係者からも様子を聞き情報交換等しながら連携図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の対応範囲を説明している。ご利用者の状態変化がみられたときは、その都度ご本人、ご家族の意向を聞き、事業所としてのできる範囲内で支援している。	重度化した時には事業所では対応ができないことを、入居時に十分に説明している。病院への入院後に心身の機能が低下して退院しても事業所での生活が難しい場合などは、家族とよく相談して特別養護老人ホームなど他施設への移行を支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所マニュアルに従い対応している、研修も行っているが十分とは言えない。実践力を身に付ける必要性が感じられる。	急変時の対応として、救急救命講習やAED講習を実施している。夜間緊急時は救急車を要請し、救急隊の指示に従うことになっている。項目ごとのマニュアルは未整備だが、感染症等の必要な対応については内部研修を実施している。	普通救命講習に参加したり、けが、骨折、発作、のどの詰まり、意識不明等の対処方法など、救急車が到着する前の応急処置や準備することを周知するよう研修を重ね、全職員が実践力を身に付けることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員の協力を得ながら年2回の避難訓練を実施しており、職員は利用者の避難方法や緊急連絡方法などを体得している。しかし、地域との協力体制の構築までは至っていない。	年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議に地区長や地域代表の参加を得て事業所の状況を把握してもらっており、地区長からは、災害時の地区の拠点としての要望も出されている。有事に備えて備蓄の準備も検討しているが、地震、台風、水害、大雪などの災害ごとのマニュアルの整備が不十分である。	災害時に適切に利用者を避難させられるよう、また、地域の拠点となり得ることもふまえて、地震、台風、水害、大雪など具体的な災害に応じたマニュアルの整備が望まれる。また、災害に備えて飲料水や寒さをしのげる物品を準備することも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけ、本人が自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。	排泄時など介助が必要な時も、本人の気持ちを大切にさりげない声掛けを心がけている。不適切な表現や対応については、職員間で声を掛けあい本人の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で言葉だけでなく、表情等の非言語のものからも、思いを把握し、自己決定を促しているが、十分な表出に繋がらないことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ、意見を尊重しながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意見を聞きながら、衣類は決定している。髭剃りや、散髪など細かい面でも気を配りながら支援につとめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取入れメニューを考え、買い物には一緒に出かけ、食前の準備、食後の下膳等、本人ができる範囲内で手伝っていただいている。イベントでは、特別メニューを考えたりと食での楽しみを支援している。	献立は職員が交代で立てているが、利用者の希望に応じて献立を変更して食事が楽しくなるよう配慮している。フキノトウなど季節の食材を取り入れたり、ひな祭りのちらし寿司など行事食も提供している。利用者とは、食後の茶碗拭きを一緒に行ったり、畑の作物を収穫したり、栗拾いをしたりと一人ひとりの力を活かしながら食事が楽しみとなるよう働きかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に応じて刻み食や、粥食に対応し、摂取しやすいように支援している。水分補給は時間以外にもこまめに摂れるように気を遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の状態に応じ、ご本人でできる方は見守りや声掛けを行い、必要な方には介助にて、毎食後全員の口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のある方はできるだけトイレで排泄するよう促している。トイレへの誘導の際は、さりげない声かけを行っている。	利用者の様子から察知して、自尊心に配慮しながら身体機能に応じて介助の仕方を工夫している。できるだけトイレで排泄できるようオムツやパット類も本人に合わせて検討している。夜間にはポータブルトイレを設置したり、時間を見計らってトイレ誘導したりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分摂取の声掛け、日中は出来る限り活動的にし、腸の動きを促せるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態や意思に合わせて入浴支援をしている。入浴時間は設定されているが、ご本人の入浴されたい時間になるべく合わせられるように努めている	利用者の希望に応じて午前と午後の入浴が選べるようになっており、温泉であるため原則24時間いつでも対応できるようにしている。供給される温泉の湯温が低いため冬場はお湯を足して対応している。利用者がよりリラックスできるよう浴槽に入ったら職員は外に出て待機するなどの配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにソファを設置したり、冬期間には利用者が馴染みのあるこたつを用意し、くつろげるようにしている。就寝時間も個々の生活習慣に応じて安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い職員が配薬を行っており、服薬が確認できるまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に合わせて可能な限り洗濯物をたたんでもらったり、様々な場面で張り合いのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態や気候を見て、散歩へ出掛けたり、町内をドライブし景色や自然を楽しんでもらえるように支援している。これから外食なども視野に入れて計画ができるよう努めている。	季節に応じて花見や紅葉狩り、かかし祭り、また、公民館での写真展などへ出かける機会を設けたり、買い物も企画している。家族へも、お盆の墓参り等の外出の協力を働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所で預らせてもらっているが、ご本人の希望によって使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用してもらい、家族や大切な方といつでも交流ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、季節感を出すため四季折々の草花や装飾を、ご利用者と職員で制作をし飾り掲示している。居心地の良い環境づくりを心掛け、こまめな掃除や環境整備を行っている。	食堂ホールは天井が高く、天窓からは光が差し込んで明るい。臭気とウイルスの除菌対策のための設備を設け、清潔な環境づくりを心がけている。壁面にはさりげなく優しい装飾が施され落ち着いた雰囲気があり、また、こたつを設置して暖かく寛いで過ごせるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、ご利用者の好きなように過ごしてもらっているが、居室の閉じこもりを防ぐために、定期的に声掛けを行いホールへ誘導し他者と交流できる場を作っている。テーブルの位置も配慮し、配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご本人が使っていたものを出来るだけ持参してもらい、居心地のいい空間づくりに努めている。	一人ひとりの居室はその人らしさが大切にされている。馴染みのものを持参してほしいと働きかけているが持ち込みが少なく、担当職員が中心となって居心地のよい環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで段差もなく歩行しやすく車イスでも可能な環境にある。手すりも設置されているので、安全・安心して生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				